教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 薬学科　　資格： 講師　　氏名： 西村　奏咲

研究分野	研究内容のキーワード
薬学教育、分析化学	初年次教育、アカデミックディテーリング、分子インプリントポリマー
学位	最終学歴
博士(薬科学)、修士(薬科学)、学士(薬学)	武庫川女子大学大学院 薬科学専攻 博士後期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.基礎学力強化教育の実施	2021年4月～現在	反転講義の導入 昨年度のオンライン講義用に作成した動画を自宅学習用資材として利用し、大学では演習講義として学生による問題解説と教員によるフィードバックを行った。 2017年度から導入したルーブリックと連携して実施した。
2.遠隔に対応した有機化学の講義	2020年9月1日～現在	2020年度1年次前期開講科目「有機化学Ⅰ」の成績解析により、遠隔講義では従来講義よりも立体化学に関する問題の得点率が低いことが分かったので、無料ツールを用い、より3次元構造の視覚情報を得やすい講義を行った。
3.特別学期における1年次有機化学まとめ講義の実施	2018年2月～現在	有機化学担当教員が抽出した１年次のうちに修得すべき有機化学の基礎知識に関する演習問題のうち、特に正答率の低い問題を中心に周辺知識の整理も含めた解説講義を行った。
4.基礎学力強化教育の実施	2017年～現在	ルーブリックの導入 「講義」、「知識整理」、「課題」、「復習」の項目ごとに観点、評価基準、尺度等を明示した。学生自身にパフォーマンスを評価させることで自身の立ち位置を自覚させ、取り組むべき課題を明確にし、学習意欲を向上させた。
5.総合演習Ⅱ（調査研究対象学生の補習）の実施	2016年4月	本学における過去のデータから国家試験合格が危惧される6年次生に対して、特別授業を実施した。 総合演習Ⅱでの講義内容を補完する形式で、有機化学の基礎的内容に関する知識の再確認を行った。少人数であるため、双方向で講義を進めた。
6.総合演習Ⅰの実施	2016年4月	CBT対策にとどまらず、国家試験対策を意識した演習講義を実施した。演習日の翌週に確認試験を実施し、正答率80％未満の学生には再試験の受験を促した。
7.基礎学力強化教育の実施	2015年4月～現在	ポートフォリオの導入 学生自身に一週間ごとの行動様式を記入させることで、学習面だけでなく生活面でのアドバイスも行った。学生の達成感や自尊心、または自己効力感を高め、次の課題を明らかにして自身の学習活動をコントロールするためのメタ認知を育てることを意図した。
8.演習講義の実施	2015年4月～現在	履修済みの内容に関して事前に宿題を課し、4～5人ごとのグループで討論しながらグループごとの解答を作成させた。発言の少ない学生には発言を促すようグループリーダーに指示し、全員が討議に参加することを義務付けた。質疑があった場合は必要に応じて問題解決のヒントを与えて誘導した。解答はその場で採点し、点数の低かった問題に関して全体にフィードバックを行った。
9.基礎学力強化教育の実施	2014年9月～現在	毎講義ごとにコミュニケーションペーパーで学生の意見・要望を抽出し、講義内容の質問についてはクラス全体にフィードバックした。 定期的に宿題の提出を課し、提出物は添削後、各学生への個別のコメントを付与して返却することで、学生の学習意欲の向上を図った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		一週間ごとの勉強計画表を作成させ、本科目だけでなく他科目の学習状況等も把握した上で指導を行った。また、今週の反省をさせた後に次週の目標を立てさせることで、PDCAサイクルを意識して目標を達成させる習慣付けを行った。
10.口頭試問による知識の確認	2014年9月～現在	2年次生を対象とした実習科目において、口頭試問やグループ演習を通して、問題解決能力を養わせた。また、知識に裏付けられた技能が習得できたか否かを口頭試問により評価した。
11.基礎学力強化教育の実施	2014年4月～現在	学習習慣の習得による学力向上を目的とした、少人数（約15名）・双方向型の基礎学力強化教育を実施した。 インプットだけでなくアウトプット（学生同士の教え合いや教員との討論）を重視した講義を実施することで、学生の学習へのモチベーションを向上させた。 毎講義開始10分程度で前回講義内容の確認試験を実施し、その後15分程度で正答率の低かった問題を中心にフィードバックを行った。また、結果が芳しくない学生に対しては、面談などの個別指導を行った。 知識の整理や復習習慣を定着させるために、講義内容に関するノートの整理および提出を義務付け、毎講義ごとに全学生のノートをcheckし、返却した。
2 作成した教科書、教材		
1.実証 薬事関係法規 第５版　ー薬事関係法規は生きているー	2024年3月13日	ISBNコード：978-4-910844-24-4
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.2019年度薬学部FDワークショップ「薬学教育推進センター設置5周年記念報告会」	2019年7月31日	「基礎学力強化教育の中間評価および薬学教育研究について」というテーマで20分間の講演を行った。
2.基礎薬学とエビデンスを活用するワークショップ	2019年4月7日	グランフロント大阪北館で開催された基礎薬学とエビデンスを活用するワークショップにタスクフォースとして参加した。
3.第92回WS　タスクフォース	2018年8月	立命館大学で実施された近畿地区調整機構が主催する「第92回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
4.高大接続委員会	2018年5月	附属高校出身学生の現状についてデータ解析を行い、附属高校教員と意見交換を行った。
5.2018年度化学構造式ワークショップ　タスクフォ ース	2018年4月	グランフロント大阪北館で開催された神戸市／兵庫医療 大学社学連携推進機構主催の2018年度化学構造式ワーク ショップ～薬のカタチを楽しもう～にタスクフォースとして参加した。
6.平成29年度アドバンストWS　タスクフォース	2018年3月	神戸学院大学で開催された兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会が主催する平成29年度認定実務実習指導薬剤師養成のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加した。
7.平成29年度タスクフォーススキルアップ研修会	2018年1月	指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修にタスクフォースとして参加した。
8.第87回WS　タスクフォース	2017年7月	兵庫医療大学で開催された近畿地区調整機構が主催する「第87回認定実務実習指導薬 剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークシ ョップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
9.2017年度前期授業公開	2017年7月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
10.平成28年度アドバンストWS　タスクフォース	2017年2月	武庫川女子大学で開催された兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会が主催する平成28年度認定実務実習指導薬剤師養成のためのアドバンストワークショップにタスクフ ォースとして参加した。
11.第83回WS　タスクフォース	2016年9月	武庫川女子大学で実施された「第83回認定実務実習指

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
12.2015年度後期授業公開	2015年12月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
13.第77回WS　タスクフォース	2015年5月	近畿大学で実施された「第77回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
14.2014年度後期授業公開	2014年12月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
15.第73回WS　参加	2014年8月30日～2014年8月31日	武庫川女子大学で実施された「第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」に受講者として参加した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.薬剤師免許	2009年6月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.第4回日本薬学教育学会大会 ワークショップ5	2019年8月	大阪大学薬学部で開催された第4回日本薬学教育学会大会　ワークショップ5「学生企画！化学構造式の臨床応用を意識づける授業をデザインしてみよう！」にファシリテーターとして参加した。
2.兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会　分科会2　タスクフォース	2019年3月3日	テーマ「教育を語ろう！教育を楽しもう！～学生と創ろう薬剤師の未来～」 講演：「本物の場」が持つ教育力 － 大学教育の質保障を支える患者と薬剤師 WS(SGD)：10年後の指導薬剤師像を考える
4 その他		
1.2021年度オープンキャンパス “ムコジョの学び紹介”担当	2021年7月10日	6年間を通した本学の学習支援制度および低学年次性を対象とした初年次教育の重要性などについて示説を行った。
2.2019年度オープンキャンパス “ムコジョの学び紹介”担当	2019年7月14日	6年間を通した本学の学習支援制度および低学年次性を対象とした初年次教育の重要性などについて、50分間（質疑応答を含めると100分間）示説を行った。
3.高校訪問	2019年7月3日	甲南女子高等学校において、本学薬学部の紹介や在校生・卒業生の現状に関して報告した。
4.高校訪問	2019年7月1日	兵庫県立姫路飾西高等学校において、本学薬学部の紹介や在校生・卒業生の現状に関して報告した。
5.薬友会役員（総務）	2019年4月～現在	
6.武庫川女子大学薬学部　2018年度オープンキャンパス　模擬授業	2018年6月3日	題目：抗HIV薬を科目横断的に捉えよう！ 15分×2回の模擬講義を行った。高校生にも理解できるレベルで行うことで、薬学に興味を持たせることを目的に行った。
7.高校訪問	2017年11月8日	兵庫県立尼崎小田高校での進学説明会において薬学分野の紹介と模擬授業の講師を担当した。
8.CBT・国試対策教育企画委員	2017年4月～現在	2017年：6年生担当、2018年：4年生担当、2019年：5年生担当、2020年：5年生担当
9.高校訪問	2016年9月7日	兵庫県立宝塚西高校での進学説明会において薬学分野の紹介と模擬授業の講師を担当した。
10.高校訪問	2015年11月	兵庫県立尼崎小田高校での進学説明会において薬学分野の紹介と模擬授業の講師を担当した。
11.武庫川女子大学薬学部　2015年度オープンキャンパス　模擬授業	2015年8月14日	題目：抗HIV薬を科目横断的に捉えよう！ 薬学の多岐に渡る科目の紹介を高校生にも理解できるレベルで行うことで、薬学に興味を持たせることを目的に行った。
12.国試対策準備・運営委員	2014年4月～現在	質の高いオリジナルの試験問題を作成・採用すること

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		により、各学生の国家試験受験資格の有無を見極めることを可能とした。 ※2015年度は「国家試験問題検討委員」、2017年度は「 総合演習Ⅱ問題検討委員」に名称が変更

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.プロマジン誘導体に対する分子インプリントポリマーの調製およびその分析化学的応用に関する研究	単	2020年3月		
3 学術論文				
1.薬剤師が有機化学を臨床で活用しない要因の抽出	共	2025年in press	薬学教育	上田昌宏，青江麻衣，西村奏咲，中澤公揮，長井紀章，清水忠
2.肥満改善薬使用に関する社会的傾向と薬学部生の認識（査読付）	共	2022年	医療薬学 vol. 48(1) pp. 35-46, 2022	北山友也、西村奏咲、桒原晶子 有害事象自発報告データベース（JADER）を用いて、肥満改善薬使用による有害作用についての解析を実施した。また、ソーシャルリスニングを利用した解析および本学薬学部生へのアンケートも実施した。その結果、肥満の基準以下での医薬品の使用による有害事象の報告が多く認められ、特に30歳未満の女性では痩せること自体を目的として減量をする傾向が認められた。さらに、現状の薬学教育は肥満改善薬の適正使用に関する教育が不十分であることが示され、適切な健康教育の必要性が示唆された。
3.薬学部初年次学生に対する基礎有機化学と臨床をつなぐチーム基盤型学習のデザインと評価	共	2020年8月	リメディアル教育研究 vol. 14 pp. 29-37	清水忠、西村奏咲、大原隆司 初年次導入科目で高校化学と有機化学が薬学臨床に活かせるという内容についてチーム基盤型学習による授業をデザインした。受講生の知識習得度の変化と受講後に行ったリフレクションペーパーの記述について解析した結果、受講後に有機化学の知識が向上し、さらに有機化学の知識が臨床に活かせることを初年次学生に意識付けられ、学習意欲の向上を図れたことを明らかとした。
4.Retention and molecular-recognition mechanisms of molecularly imprinted polymers for promazine derivatives	共	2019年	Talanta vol.205 pp. 1-9 2019	Haginaka J., Nishimura K., Kimachi T., Inamoto K., Takemoto Y., Kobayashi Y. プロマジン（PZ）、メチルプロマジン（MPZ）、クロルプロマジン（CPZ）およびブロモプロマジン（BPZ）に対する 分子インプリントポリマー（それぞれ、MIPPZ、MIPMPZ、MIPCPZ および MIPBPZ）を多段階膨潤重合法により調製し、その保持および分子認識能を検討した。さらに、これらの MIP における PZ 誘導体の保持および分子認識機構を、LC における保持および計算化学的手法により検討した。
5.Evaluation of molecularly imprinted polymers for chlorpromazine and bromopromazine prepared by multi-step swelling and polymerization method—The application for the determination of chlorpromazine and its metabolites in rat plasma by column-	共	2019年	J. Pharm. Biomed. Anal. vol. 174 pp. 248-255	Nishimura K., Okamura N., Kimachi T., Haginaka J. ブロモプロマジン（BPZ）に対する分子インプリントポリマー（MIPBPZ）を前処理カラムとして用いたカラムスイッチング LC-UV 法により、ラット血漿中のクロルプロマジン（CPZ）およびその代謝物であるデスメチルクロルプロマジン（DM-CPZ）、クロルプロマジンスルホキシド（CPZ-SO）、クロルプロマジン N-オキシド（CPZ-NO）およびジデスメチルクロルプロマジン（DDM-CPZ）の同時定量に成功した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
switching LC（査読付）				
6.Preparation and Evaluation of Molecularly Imprinted Polymers for Promazine and Chlorpromazine by Multi-step Swelling and Polymerization: the Application to Determination of Promazine in Rat Serum by Column-switching LC （査読付）	共	2019年	Anal. Sci. vol. 35 pp. 659-664	Nishimura K., Haginaka J. プロマジン（PZ）およびクロルプロマジン（CPZ）に対する分子インプリントポリマー（MIPPZ および MIPCPZ）を多段階膨潤重合法により調製し、PZ、CPZ、プロメタジン、フェノチアジンの保持および分子認識に対する、移動相 pH およびアセトニトリル含量の影響を、LC により評価した。さらに、MIPCPZ を前処理カラムとして用いたカラムスイッチング LC-蛍光法により、ラット血清中の PZ の選択的抽出に成功した。
7.基礎系教員と実務家教員の連携による実務実習事前学習の試みとその評価 （査読付）	共	2018年8月	薬学教育 vol. 2 pp. 1-7 2018	清水忠、西村奏咲、安田恵、村上雅裕、橋本佳奈、大野雅子、桂木聡子、上田昌宏、天野学 臨床現場での基礎薬学の知識の有用性を理解させることを目的として、基礎系教員と臨床系教員が連携して医薬品の配合変化に関する実習を実施した。終了後のアンケート調査結果では、受講生の90%以上が基礎薬学の知識が臨床の問題を解決するのに有用であると回答したことから、基礎薬学が臨床現場でどのように役に立つかを意識させる実習を提供できたことが示唆された。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
8.薬剤師を対象とした化学構造式研修の取り組みと研修後アンケート調査 （査読付）	共	2018年8月	薬学雑誌 vol. 138:pp. 1085-1093 2018	清水忠、西村奏咲、上田昌宏 薬剤師会および病院薬剤師会において、我々が実施した医薬品の化学構造式研修会受講者の化学構造式に対する意識・利用調査および研修内容の理解度調査を実施し、化学構造式を活用できない要因や化学構造式に対する薬剤師のニーズを明らかにすることを目的として解析を行った。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
9.薬理学教育に対する解剖生理学領域における低習熟度学生対象教育の効果 （査読付）	共	2016年12月	薬学雑誌 vol. 136:pp. 1651-1656 2016	北山友也、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、篠塚和正、中林利克 本学で実施している基礎学力強化教育対象科目の一つである解剖生理学に関して、並行して開講している薬理学の成績に与える影響について解析を行ったところ、解剖生理学における強化教育対象学生は、薬理学においても良い影響があることが示唆された。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.プロマジン誘導体に対する分子インプリントポリマーの評価と応用	単	2020年11月	第31回クロマトグラフィー科学会議 若手依頼講演	
2.テキストマイニングの実践報告―対応分析から見る化学構造式研修会の評価―	単	2019年8月	第4回日本薬学教育学会 シンポジウム4	
2．学会発表				
1.Bisphenol Aおよびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの保持能および分子認識能の検討	共	2024年3月	日本薬学会第144年会	本田千恵、西村奏咲、葉山　登、萩中　淳
2.Bisphenol Aおよびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価	共	2023年3月	日本薬学会第143年会	西村奏咲、神路浩美、　本田千恵、　萩中淳

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
3.有機化学系科目での反転授業の予備的評価	共	2022年3月	日本薬学会第142年会	西村奏咲、北山 友也、中村 一基
4.自己学修時間と留年との関連性に関する解析（第2報）	共	2021年3月	日本薬学会第141年会	北山友也、西村奏咲、中村一基
5.遠隔講義による有機化学教育の弱点と対応	共	2021年3月	日本薬学会第141年会	西村奏咲、北山 友也、中村 一基
6.プロマジン置換体に対する分子インプリントポリマーの保持能および分子認識能の評価	共	2020年10月	第70回日本薬学会関西支部大会	西村奏咲、萩中淳
7.プロマジン誘導体に対する分子インプリントポリマーの調製と応用：非水系移動相による分子認識能の評価	共	2020年5月	第80回分析化学討論会	西村奏咲、久保有沙、萩中淳
8.自己学習時間と留年生との関連性に関する解析	共	2020年3月	日本薬学会第140年会	北山友也、西村奏咲、野坂和人
9.プロマジン誘導体に対する分子インプリントポリマーにおける保持および分子認識機構：ハロゲン結合の寄与	共	2020年3月	日本薬学会第140年会	西村奏咲、來海徹太郎、稲本浄文、小林祐輔、竹本佳司、萩中淳
10.「こども薬局」への参加が、保護者の「調剤待ち許容時間」に及ぼす影響	共	2019年10月	第51回日本薬剤師会学術大会	児島悠史、小原一将、北澤裕矢、清水忠、西村奏咲
11.有機化学の臨床応用に向け薬剤師が抱える障壁の抽出と対応策の検討	共	2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会	中澤公揮、大原隆司、上田昌宏、西村奏咲、清水 忠
12.1年前期開講科目における強化教育対象学生選別法の開発と評価	共	2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会	西村奏咲、北山友也、野坂和人
13.プロマジン誘導体に対する分子鋳型ポリマーにおける保持および分子認識機構	共	2019年6月	第26回クロマトグラフィーシンポジウム	西村奏咲、來海徹太郎、小林祐輔、竹本佳司、萩中淳 ※Best Presentation Award 受賞
14.分子インプリントポリマーを前処理カラムに用いるラット血漿中のクロルプロマジンおよびその代謝物のLC分析	共	2019年3月	日本薬学会第139年会	西村奏咲、來海徹太郎、岡村昇、萩中淳
15.高校化学と薬学臨床をつなぐ薬学部初年次における有機化学導入教育の実践	共	2018年8月	日本リメディアル教育学会第14回全国大会	清水忠、西村奏咲、大原隆司 ※大会発表優秀賞受賞
16.化学構造式を考慮した処方提案を目指すワークショップの実践とその評価	共	2018年8月	第3回日本薬学教育学会大会	中澤公揮、大原隆司、上田昌宏、西村奏咲、清水忠

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
17.薬剤師を対象とした処方提案ワークショップ実施後のアンケート調査と解析	共	2018年8月	第3回日本薬学教育学会大会	上田昌宏、稲生貴士、村田繁紀、新原博輝、豊山美琴、大原隆司、中澤公揮、西村奏咲、清水忠
18.成績推移およびアンケート調査結果に基づく強化教育対象者選別法の評価	共	2018年8月	第3回日本薬学教育学会大会	西村奏咲、川崎郁勇、北山友也、三木知博
19.自己学習時間と成績との関係に関する3年間の調査研究	共	2018年8月	第3回日本薬学教育学会大会	北山友也、西村奏咲、三木知博
20.プロマジンおよびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価	共	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2018）	西村奏咲、萩中淳
21.有機化学教員と臨床系教員の連携による実務実習事前学習の実践とその評価	共	2018年3月	日本薬学会第138年会	清水忠、安田恵、村上雅裕、橋本佳奈、大野雅子、上田昌宏、西村奏咲、桂木聡子、天野学
22.成績に対する自己学習時間調査の影響	共	2018年3月	日本薬学会第138年会	北山友也、西村奏咲、三木知博、篠塚和正
23.スペクトル構造解析学におけるカルタを用いた演習の実施と評価	共	2018年3月	日本薬学会第138年会	河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博
24.クラスサイズの違いによる成績およびアンケート結果への影響	共	2018年3月	日本薬学会第138年会	西村奏咲、北山友也、三木知博
25.基礎学力強化教育の効果および“課題提出義務付け”の有効性の検証	共	2017年10月	第67回 日本薬学会近畿支部総会・大会	西村奏咲、川崎郁勇、來海徹太郎、三木知博
26.プロマジンおよびクロルプロマジンに対する分子インプリントポリマーの調製と血清中のプロマジンの分析への応用	共	2017年9月	日本分析化学会 第66年会	西村奏咲、萩中淳
27.有機化学Ｉにおける時間外学習の習慣付け	共	2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会	西村奏咲、小関稔、川崎郁勇、三木知博
28.自己学習時間の実態調査と成績との関係に関する調査研究	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	北山友也、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博、篠塚和正
29.スペクトル構造解析学の習熟度別授業の実践と評価	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	河井伸之、川崎 郁勇、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博
30.2016 年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	西村奏咲、川崎郁勇、稲本浄文、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、三木知博
31.初年次生に対する基礎学力強化教育の効果測定	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	西村奏咲、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、三木知博、中林利克
32.習熟度別クラスの編成における重回帰分析を用いた新規クラス分け法の検証	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、安東由則、三木知博、中林利克

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
33.生化学における初年次基礎学力強化教育の運用と評価	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克、三木知博
34.三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克
35.生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克
36.薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克
37.下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、中林利克
38.2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎的学力強化教育の運用と評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	西村奏咲、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、中林利克
39.生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克
40.解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克
41.薬理学分野における強化教育に対する予備的評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、中林利克
42.有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克
43.薬学部初年次教育(有機化学)における習熟度別授業の効果	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	西村奏咲、西出喜代治、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、中林利克
44.6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合否との相関分析	共	2014年3月	日本薬学会第134年会	開章宏、吉村典久、高木愛未、西村奏咲、細井信造、後藤直正
３．総説				
1.サイロキシンの脱ヨード酵素反応におけるハロゲン結合の関与	単	2021年5月	ファルマシア vol. 5 pp. 413 2021	ハロゲン結合は、タンパク質-リガンド複合体や核酸など多くの生体分子で確認され、標的タンパク質に対する低分子リガンドの選択性を高めることが報告されている。本稿では、甲状腺ホルモン(TH)の位置選択的な脱ヨード酵素反応にハロゲン結合が関与することを示したBayseらの論文に基づいて、その研究成果を紹介した。
2.テキストマイニングを用いたアンケート解析（査読付）	共	2021年	薬学教育 vol. 5 pp. 1-5 2021	Nishimura K., Shimizu T. 近年は質的データの活用への関心が高まっており、アンケートの自由記述やレポート、インタビュー記録など、さまざまなテキスト型データを取り扱う機会が増えている。テキスト型データが、教育研究を行う上でどのように役立つのか、対応分析を用いた実践例を基に論じた。
3.Effectiveness of hierarchical linear modeling analysis on ev aluation research.	共	2017年11月2日	Global Drugs and Therapeutics vol.3 pp1-4. 2017	Kitayama T., Nishimura K., Miki T. 統計手法のひとつである階層的解析が教育研究で有用な手法であることを基礎的研究と比較して論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
（査読付）				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2019年度	共	2020年	武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター	
2.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2018年度	共	2019年	武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター	
3.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2017年度	共	2018年	武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター	
4.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2016年度	共	2017年	武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター	編集を行った。
5.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2015年度	共	2016年	武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター	
6.武庫川女子大学薬学部　薬学教育推進センター年報　2014年度	共	2015年	武庫川女子大学薬学部薬学教育推進センター	
６．研究費の取得状況				
1.医薬品およびその置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と応用　（分担）	共	2020年4月		基盤研究(C)　継続 課題ID　19090395

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年3月	日本薬学会第143年会　ポスター発表学生優秀発表賞審査員（分析化学）
2.2020年10月10日	第70回日本薬学会関西支部大会　優秀発表賞審査員（分析化学）
3.2020年10月10日	第70回日本薬学会関西支部大会　座長（分析化学）
4.2017年10月14日	第67回 日本薬学会近畿支部総会・大会　座長（教育系薬学）
5.2017年4月～現在	日本分析化学会　会員
6.2016年4月～現在	日本薬学教育学会　会員
7.2014年4月～現在	日本薬学会